

ごんぎつね

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの、中山というところに、小さなお城があつて、中山さまというお殿さまが、おられたそうです。

その中山から、少し離れた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。

ごんはひとりぼっちの子ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、穴を掘って住んでいました。

そして、夜でも、昼でも、あたりの村へ出てきて、いたづらばかりしました。

畑へ入って芋を掘りちらしたり、菜種がらの干してあるのに火をつけたり、百姓屋の裏手に吊るしてあるとんがらしをむしりとっていったり、いろんなことをしました。

ある秋のことでした。二、三日雨が降り続いたそのあいだ、ごんは、外へも出れなくて、穴の中にしゃがんでいました。